

第2章 高齢者を取り巻く現状と課題

第2章 高齢者を取り巻く現状と課題

第1節 日常生活圏域の設定

1 日常生活圏域の考え方

介護保険事業計画においては、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を継続できるように、町の地理的条件、人口、交通事情やその他の社会的条件、介護給付等対象サービスを提供するための施設整備の状況、その他の条件を総合的に勘案し、日常生活圏域を設定して取り組むことが求められています。

地域密着型サービス等の整備方針や提供体制の構築については、この日常生活圏域を基本とします。

2 日常生活圏域の設定

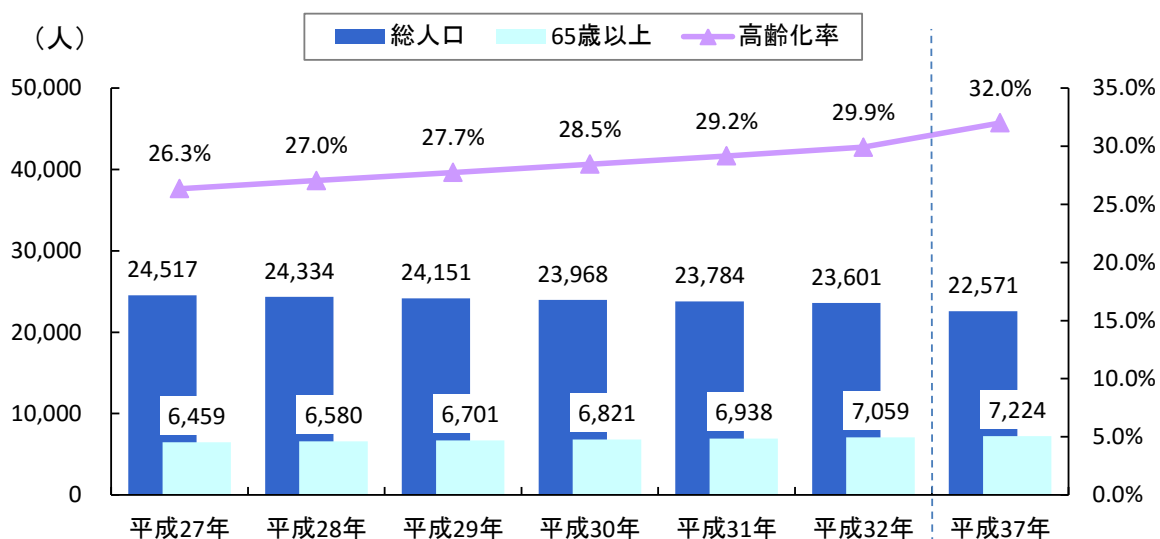
本町では、平成18年度に全町を一つの日常生活圏域として設定しました。本計画の策定時においても、再度検討しましたが、第6期と比べても本町の状況に大きな変化がないことから、また本町においては、各種行事等が町全体で行われており、住民が一体感を持っている点等を考慮し、今後も町全体を一つの日常生活圏域とすることとし、今後の基盤整備を推進していきます。

第2節 高齢者を取り巻く状況

1 高齢者人口の推移及び推計

本町の65歳以上の高齢者人口は年々増加しており、今後も増加し続けるものと予測されます。平成32(2025)年には、国勢調査に基づく65歳以上の高齢者人口の推計は7,000人を超え、高齢化率は29.9%、平成37(2030)年度には32.0%と3割を超えることが見込まれます。

■総人口における高齢者人口の推移及び推計



(単位：人、%)

区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成37年
総人口	24,517	24,334	24,151	23,968	23,784	23,601	22,571
高齢者人口	6,459	6,580	6,701	6,821	6,938	7,059	7,224
前期高齢者人口 (65歳～74歳)	3,416	3,484	3,552	3,621	3,688	3,757	3,278
後期高齢者人口 (75歳以上)	3,043	3,096	3,149	3,200	3,250	3,302	3,946
高齢化率 (%)	26.3	27.0	27.7	28.5	29.2	29.9	32.0
40歳～64歳人口	10,074	9,911	9,752	9,591	9,432	9,270	8,550

※推計値(平成28年以降)は平成27年国勢調査に基づく国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来推計人口

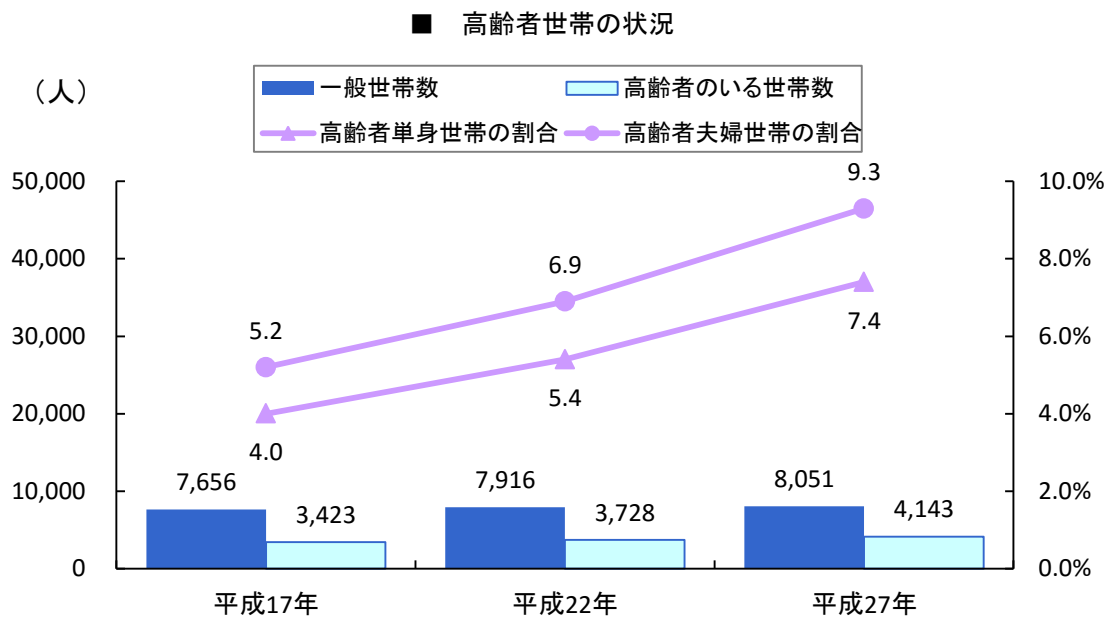
※高齢化率は、65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合。

2 高齢者世帯の状況

本町の世帯の状況を国勢調査の結果で見ると、総世帯数、一般世帯数ともに増加傾向にあります。

一般世帯のうち高齢者のいる世帯は、平成27年の国勢調査で4,143世帯となっており、一般世帯に占める割合は51.5%と半数を超えていることがわかります。

同様に平成27年の国勢調査では、町内の高齢者単身世帯は、596世帯、高齢者夫婦世帯も748世帯と、世帯数及び一般世帯数に占める割合ともに増加の傾向が見られます。



(単位：世帯、%)

	平成17年	平成22年	平成27年
総世帯数 (A)	7,666	7,923	8,061
一般世帯数 (B)	7,656	7,916	8,051
高齢者のいる世帯 (C)	3,423	3,728	4,143
比率 C/B (%)	44.7	42.3	51.5
高年齢者単身世帯 (D)	309	424	596
比率 D/B (%)	4.0	5.4	7.4
高年齢者夫婦世帯 (E)	396	546	748
比率 E/B (%)	5.2	6.9	9.3

※国勢調査より引用

※一般世帯 (B) は、総世帯のうち、施設の入所者や病院の入院者等を除いた世帯数

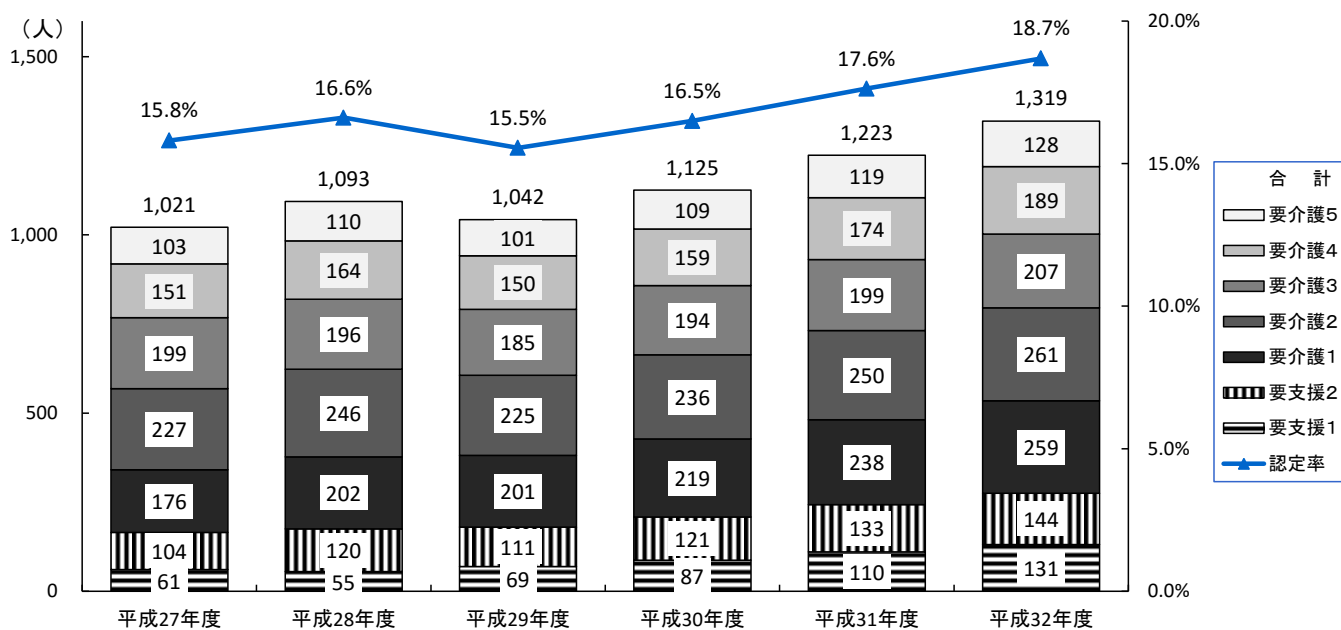
※高年齢者夫婦世帯 (E) は、夫65歳以上妻60歳以上の1組の一般世帯数

3 要介護認定者数等の推移及び推計

要介護（要支援）認定者数については、年々増加しており、今後も増加し続けるものと予測されます。平成32年度には1,319人になると見込まれます。

また、要介護認定者の高齢者に占める割合（認定率）は、平成32年度で18.7%になると見込まれます。

■ 要介護認定者数等の推移及び推計



(単位：人、%)

	要支援・要介護認定者数					
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
要支援1	61	55	69	87	110	131
要支援2	104	120	111	121	133	144
要介護1	176	202	201	219	238	259
要介護2	227	246	225	236	250	261
要介護3	199	196	185	194	199	207
要介護4	151	164	150	159	174	189
要介護5	103	110	101	109	119	128
合計	1,021	1,093	1,042	1,125	1,223	1,319
認定率	15.8%	16.6%	15.5%	16.5%	17.6%	18.7%

※平成29年度までは本町の実績値、平成30年度以降は推計値

※認定者数は第2号被保険者の認定者を含んだ全体の数値

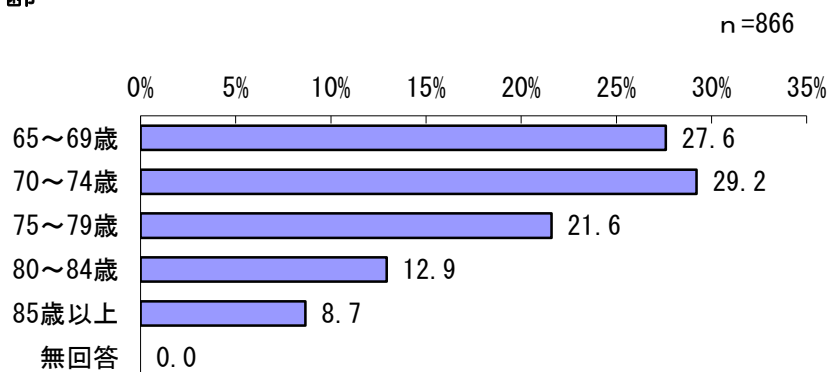
※「認定率」は要支援・要介護認定者の合計を高齢者人口（12ページ）で割ったもの

第3節 アンケート調査結果の概要

以下は、本計画策定にあたって実施した調査（8 ページに調査の概要）の結果を取りまとめたものです。文中「n」とあるのは回答者数を意味します。

1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

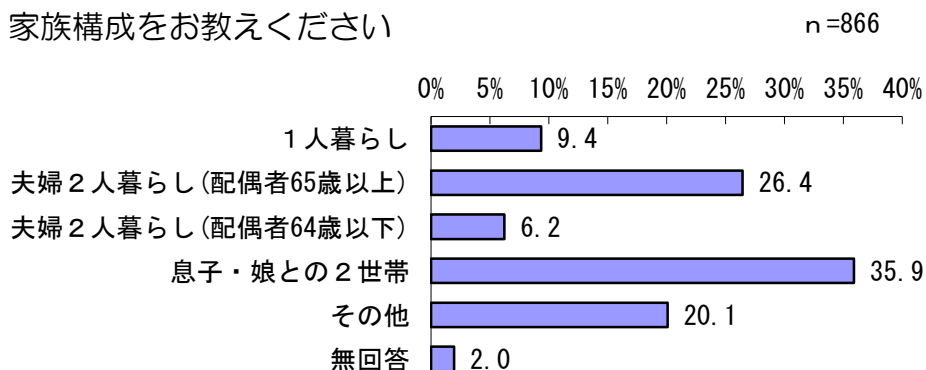
(1) 回答者の年齢



回答者の年齢では、70～74歳の方が29.2%で最も高く、次いで65～69歳の方が27.6%、75～79歳の方が21.6%となっています。

(2) 世帯の状況

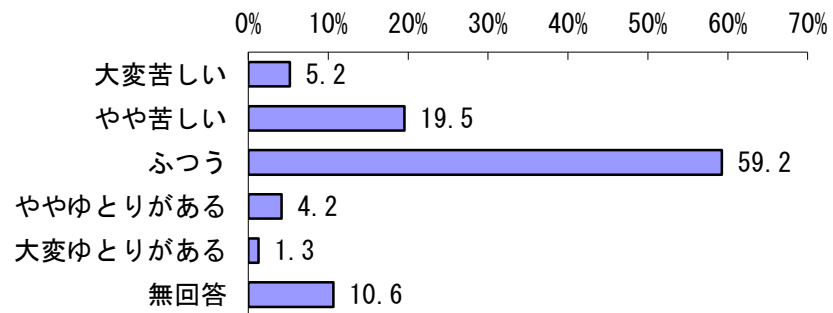
問 家族構成をお教えてください



世帯の状況については、「息子・娘との2世帯」が35.9%で最も高く、次いで「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が26.4%、「その他」が20.1%となっています。

(3) 暮らしの状況

問 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか n=866

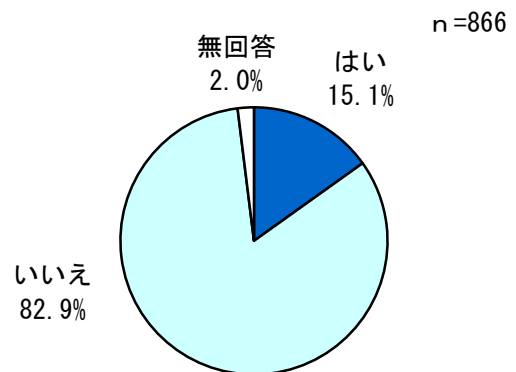


暮らしの状況については、「ふつう」との回答が59.2%で最も高くなっています。

(4) 外出を控えているか

問 外出を控えていますか

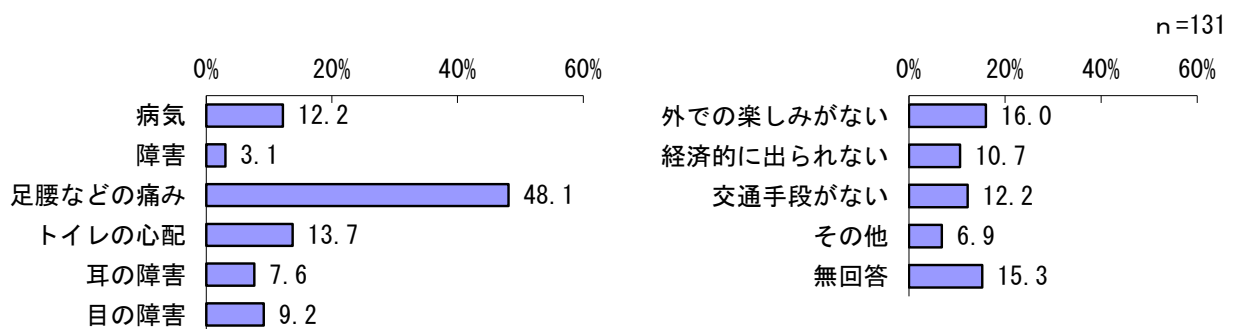
外出を控えているかについては、「はい」が15.1%、「いいえ」が82.9%となっています。



(5) 外出を控えている理由

問 【(4)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)



外出を控えている理由については、「足腰などの痛み」が48.1%で最も高く、次いで「外での楽しみがない」が16.0%、「トイレの心配」が13.7%と高くなっています。

(6) 会やグループへの参加の頻度

問 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

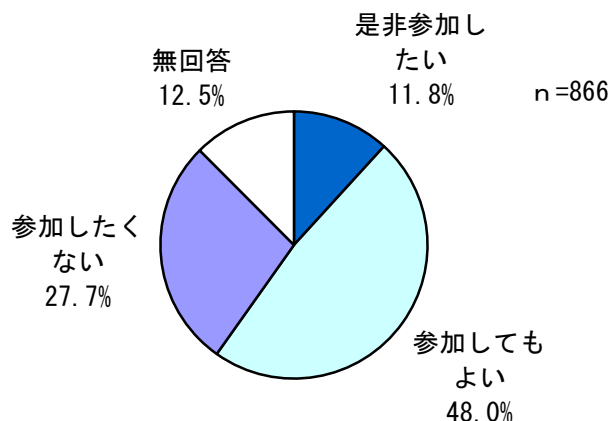
(単位：%)	『参加している』					参加していない	無回答
	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回		
①ボランティア	10.3	0.7	1.4	0.9	3.5	3.8	50.9
②スポーツ関係	20.0	3.7	6.1	2.9	4.7	2.5	46.3
③趣味関係	25.4	1.5	5.5	4.2	10.6	3.6	44.3
④学習・教養	9.6	0.2	1.2	1.0	4.3	2.9	51.0
⑤老人クラブ	17.3	0.8	0.8	0.6	7.0	8.1	45.8
⑥町内会・自治会	20.0	0.7	0.3	0.8	2.5	15.6	49.5
⑦収入のある仕事	20.9	12.1	4.0	1.4	1.6	1.7	45.6

『参加している』との回答では趣味関係が25.4%で最も高くなっています。

(7) 地域づくりへの参加

問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

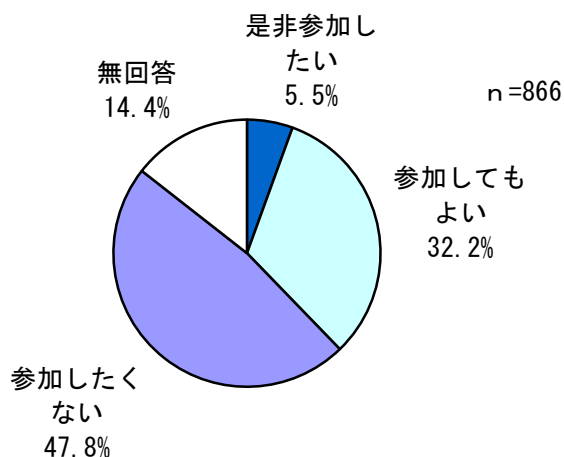
地域づくりへの参加意向については、「是非参加したい」が11.8%、「参加してもよい」が48.0%となっており、『参加する意向がある』人の割合は全体の59.8%となっています。



(8) 地域づくりの企画・運営

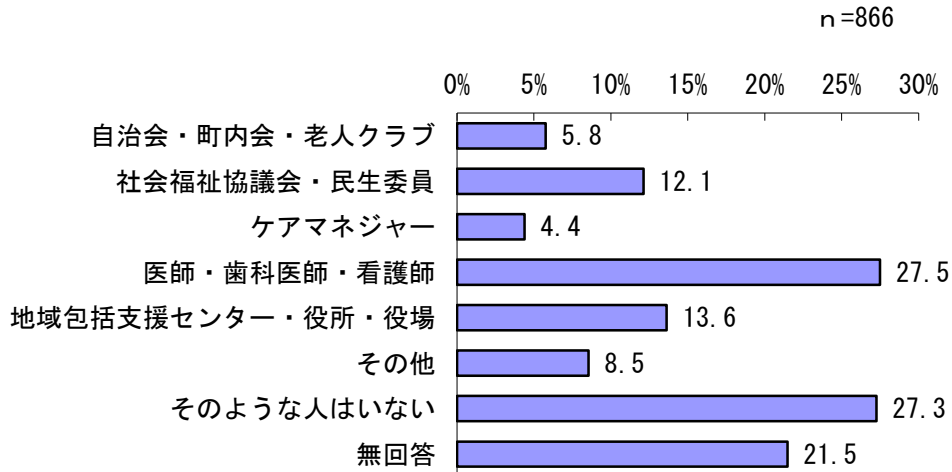
問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

地域づくりの企画・運営への参加意向については、「是非参加したい」が5.5%、「参加してもよい」が32.2%となっており、『参加する意向がある』人の割合は全体の37.7%となっています。



(9) 相談相手

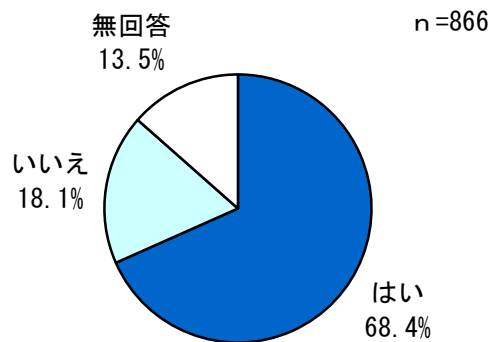
問 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください
(いくつでも)



家族や友人・知人以外の相談相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が27.5%で最も高く、次いで「そのような人はいない」が27.3%、「地域包括支援センター・役所・役場」が13.6%などとなっています。

(10) 在宅医療(訪問診療等)の希望

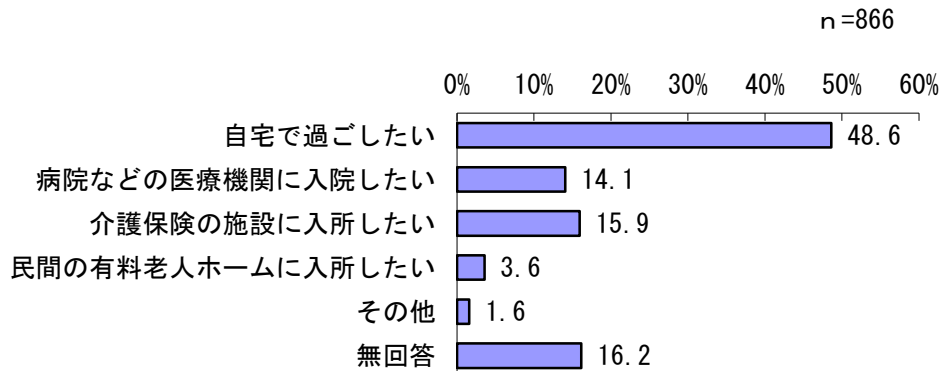
問 あなたが、病気等により在宅で過ごすことになったときに在宅医療(訪問診療等)を希望しますか



在宅医療を希望するかについては、「はい」が68.4%、「いいえ」が18.1%となっています。

(11) 医療や介護が必要になった場合に過ごしたい場所

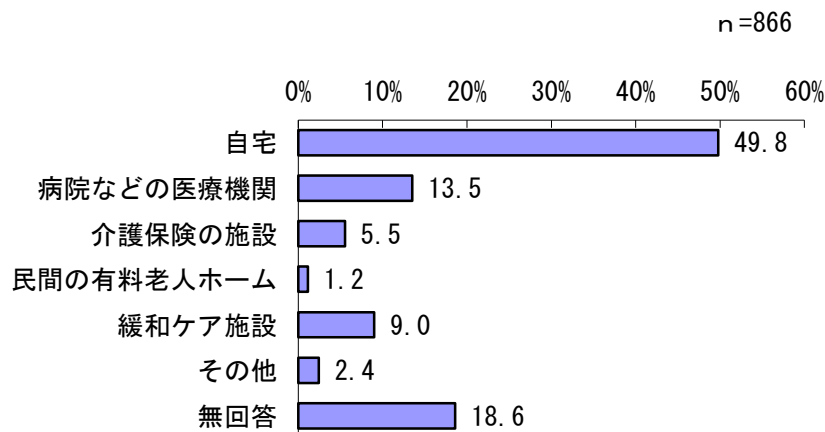
問 今後、医療や介護が必要になったときに、どこで過ごしたいですか



医療や介護が必要になった場合に過ごしたい場所については、「自宅で過ごしたい」が48.6%で最も高く、次いで「介護保険の施設に入所したい」が15.9%、「病院などの医療機関に入院したい」が14.1%などとなっています。

(12) 終末期を迎えたい場所

問 あなたは、人生の終末期(治る見込みがなく死期が迫っている)をどこで迎えたいですか

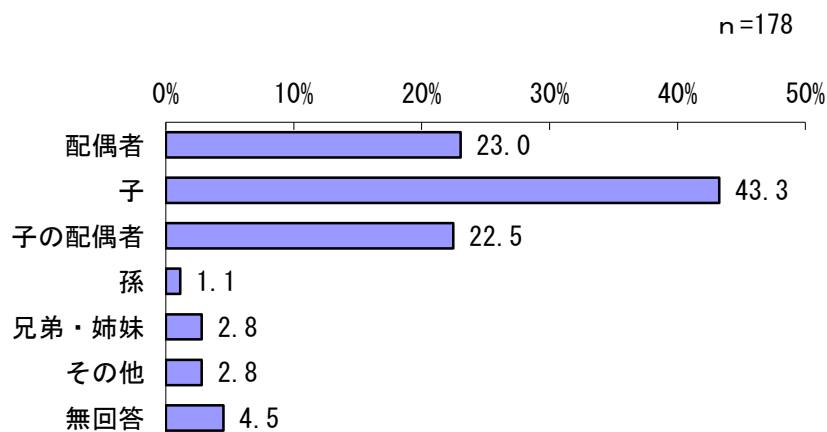


終末期を迎えたい場所については、「自宅」が49.8%で最も多く、次いで「病院などの医療機関」が13.5%、「緩和ケア施設」が9.0%などとなっています。

2 在宅介護実態調査

(1) 主な介護者

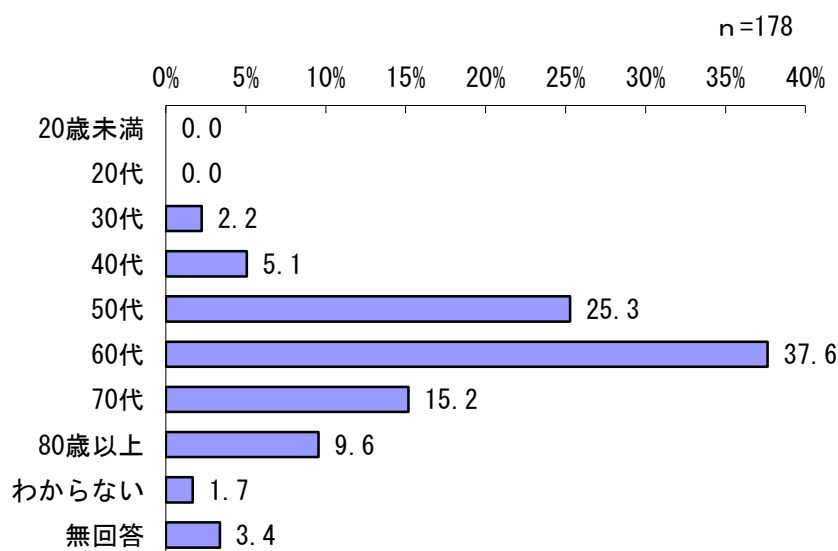
問 主な介護者の方は、どなたですか



主な介護者については、「子」が43.3%で最も高く、次いで「配偶者」が23.0%、「子の配偶者」が22.5%などとなっています。

(2) 主な介護者の年齢

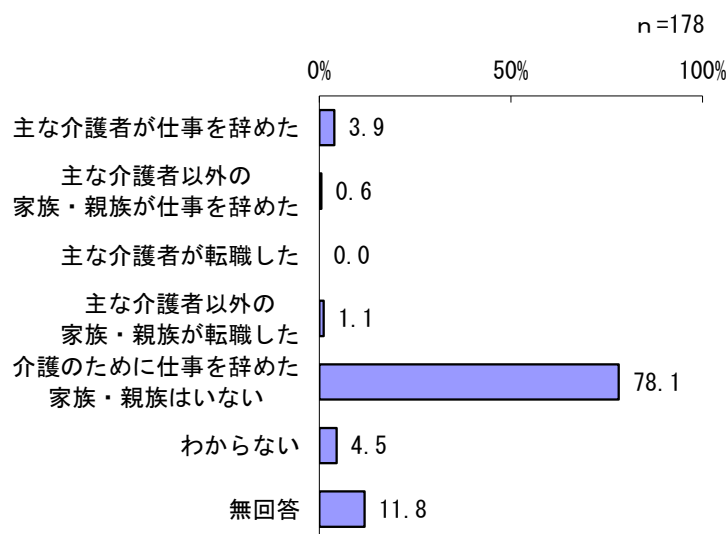
問 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください



主な介護者の年齢については、「60代」が37.6%で最も高く、次いで「50代」が25.3%、「70代」が15.2%などとなっています。

(3) 介護のために仕事を辞めた家族・親族

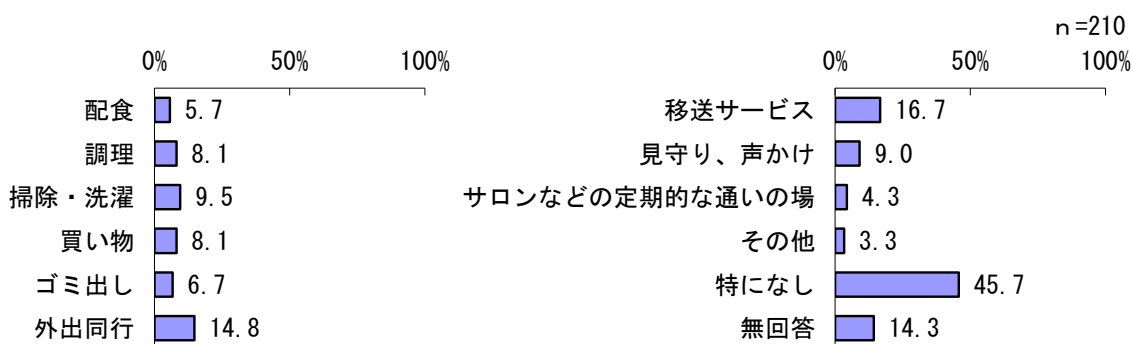
問 ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)



介護のために仕事を辞めた家族・親族がいるかどうかについては、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が78.1%で最も高くなっています。

(4) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

問 今後の在宅生活の継続に必要だと感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください

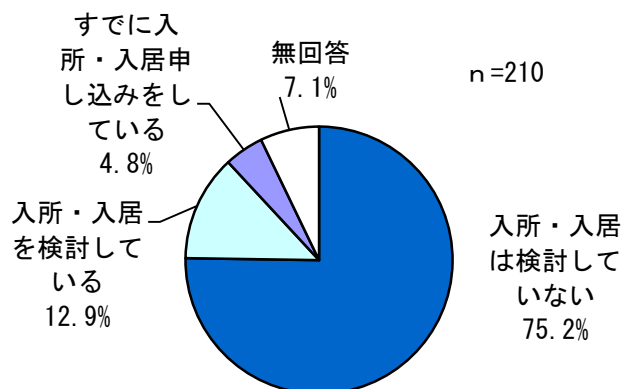


在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「特になし」が45.7%で最も高く、次いで「移送サービス」が16.7%、「外出同行」が14.8%などとなっています。

(5) 施設等への入所・入居の検討状況

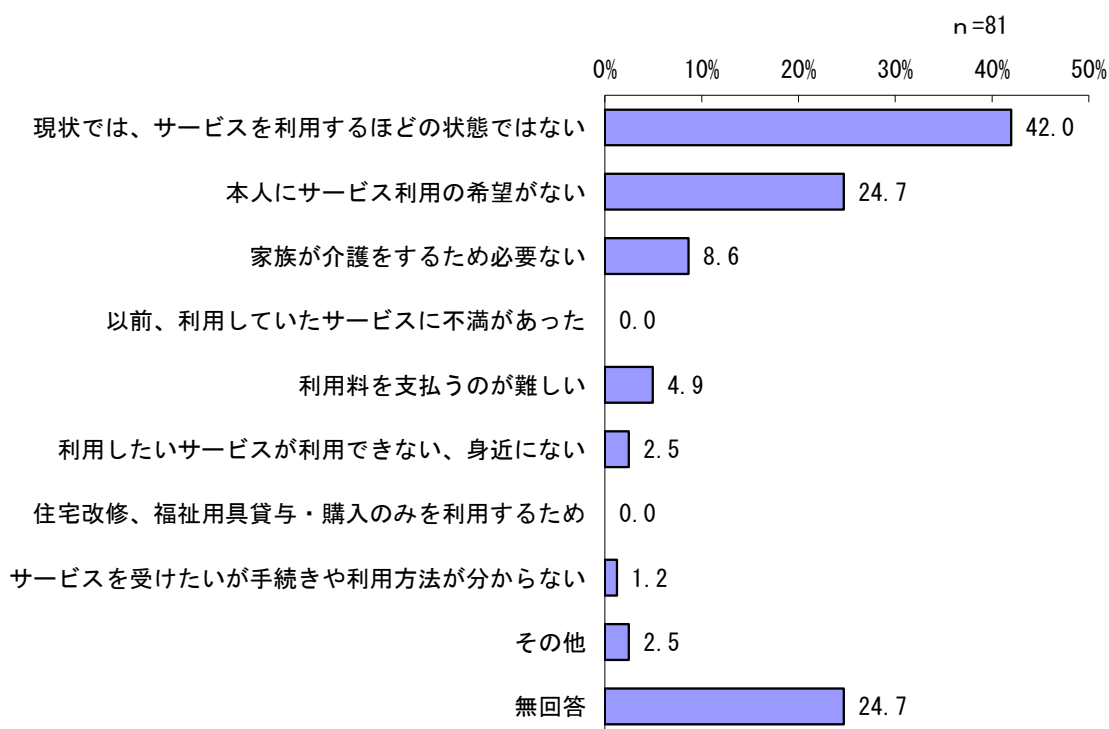
問 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください

施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が 75.2%、「入所・入居を検討している」が 12.9%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 4.8%となっています。



(6) 介護保険サービスを利用していない理由

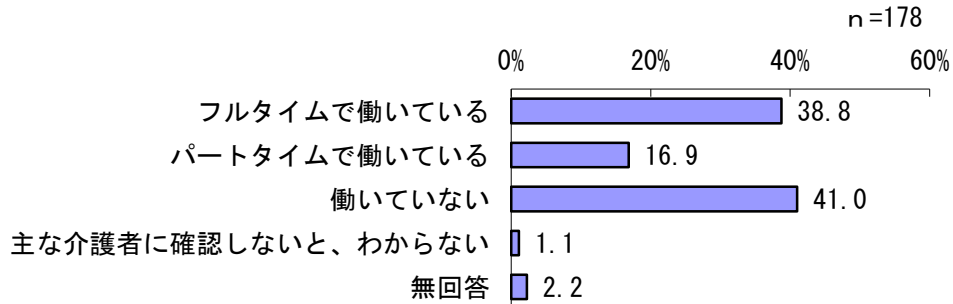
問 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか



介護保険サービスを利用していない理由については、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 42.0%で最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 24.7%などとなっています。

(7) 主な介護者の勤務形態

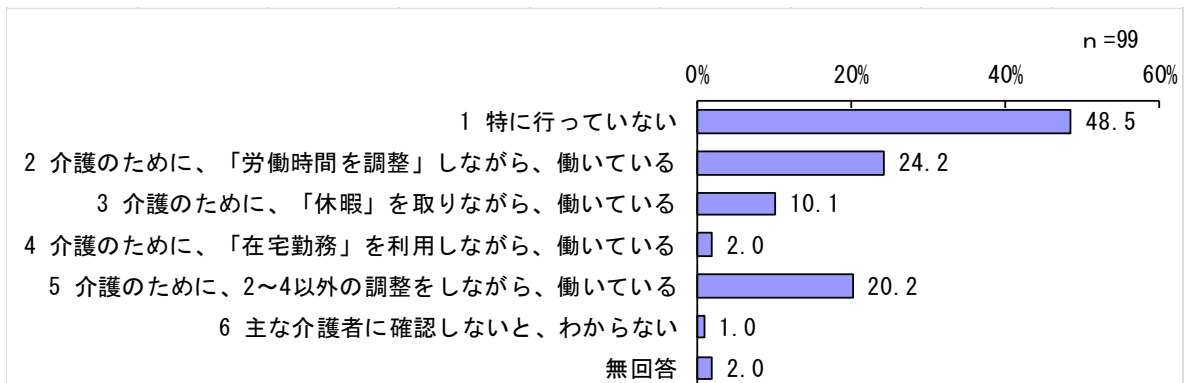
問 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください



主な介護者の勤務形態については、「働いていない」が41.0%で最も高く、次いで「フルタイムで働いている」が38.8%などとなっています。

(8) 主な介護者の働き方の調整等

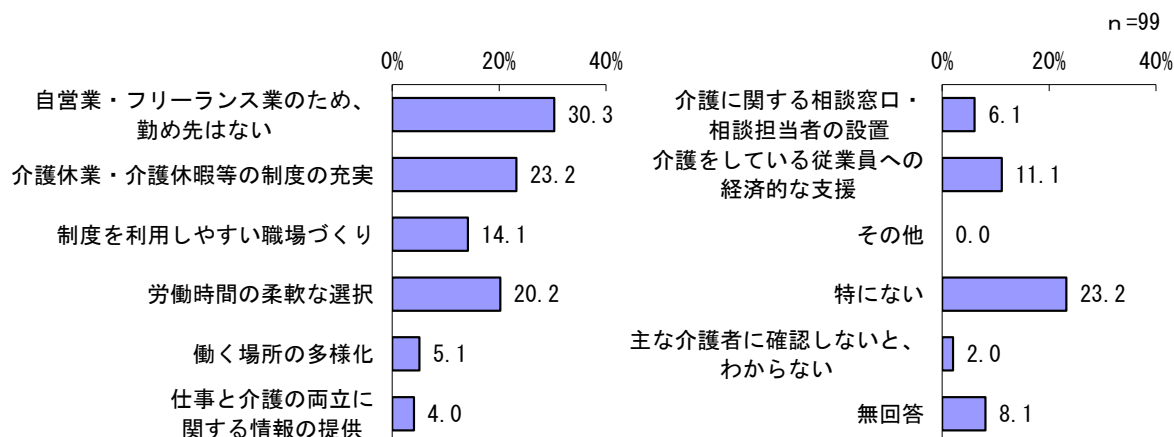
問 (7)で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか



主な介護者の働き方の調整については、「特に行っていない」が48.5%で最も高く、次いで「介護のために、『労働時間を調整』しながら、働いている」が24.2%、「介護のために、2~4以外の調整をしながら、働いている」が20.2%などとなっています。

(9) 仕事と介護の両立に効果がある支援

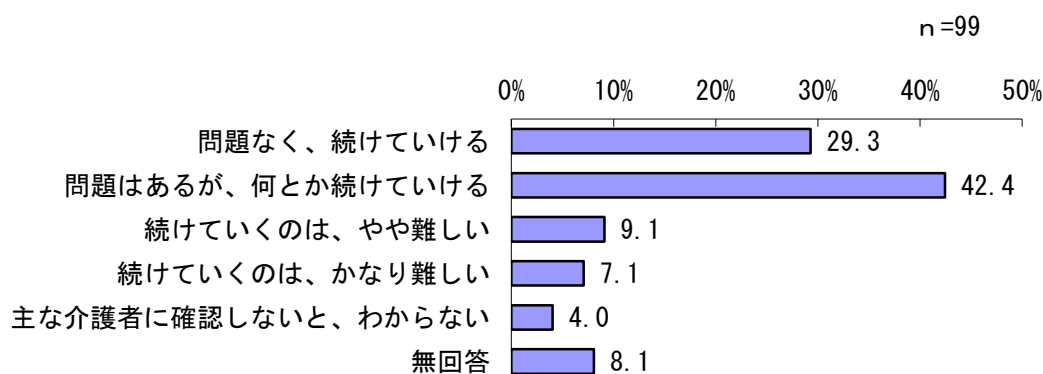
問 (8)で「特に行っていない」、「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか



仕事と介護の両立に効果がある支援については、「自営業・フリーランス業のため、勤め先はない」が30.3%、「特にない」が23.2%と高くなっていますが、一方で「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が23.2%、「労働時間の柔軟な選択」が20.2%で、高くなっています。

(10) 今後の仕事と介護の両立

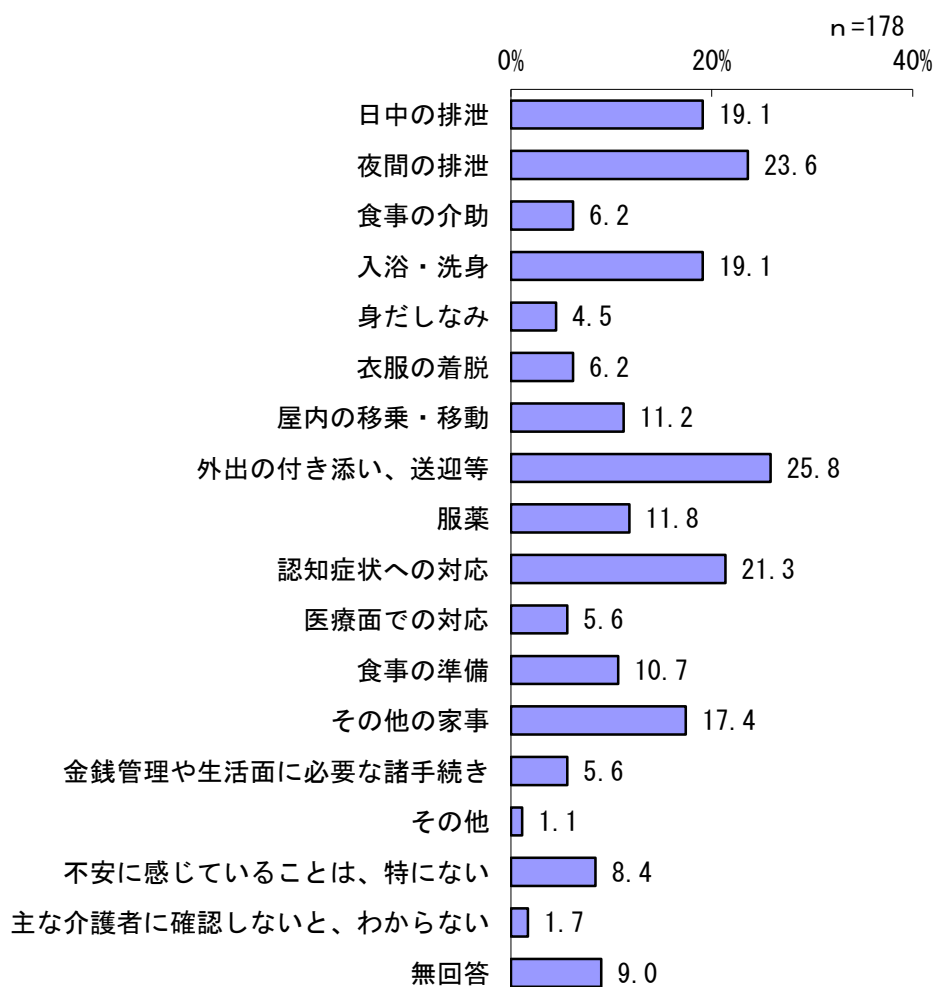
問 (8)で「特に行っていない」、「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか



今後の仕事と介護の両立については、「問題はあるが、何とか続けていける」が42.4%で最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が29.3%などとなっています。

(11) 不安を感じる介護等

問 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください



不安を感じる介護等については、「外出の付き添い、送迎等」が25.8%で最も高く、次いで「夜間の排泄」が23.6%、「認知症状への対応」が21.3%となっています。

3 介護支援専門員調査

(1) 町内のケアプランの利用者数

問 あなたの事業所で立てているケアプランを利用している方のうち、境町にお住まいの方はそれぞれ何人ですか。0人の場合は0とお書きください。

	要支援者 以外の 介護予防 ケアプラン	1 要 支 援	2 要 支 援	1 要 介 護	2 要 介 護	3 要 介 護	4 要 介 護	5 要 介 護	合 計
A事業所	0	0	0	5	6	6	0	1	18
B事業所	1	0	1	2	10	10	2	0	28
C事業所	0	0	0	28	31	17	12	6	94
D事業所	0	0	0	2	7	5	3	2	19
E事業所	0	1	8	23	26	29	10	2	99
F事業所	0	0	0	2	1	2	1	0	6
G事業所	0	0	0	3	6	3	1	1	14
H事業所	0	0	5	8	8	7	4	2	34

(単位：人)

町内のケアプランの利用者数の合計人数については、最も多い事業所では99人となっており、最も少ない事業所では6人となっています。

(2) ひとり暮らし及び日中ひとりになることが多い方の人数

問 (1)の方のうち、次に該当する方は何人いらっしゃいますか。

- ・ひとり暮らしの方
- ・同居の家族はいらっしゃるが、日中ひとりになることが多い方

	プランを立て ている人数	ひとり暮らし	ひとり暮らし の 割合(%)	同居の家族は いるが 日中ひとり	日中ひとりの 割合(%)
A事業所	18	2	11.1	0	0.0
B事業所	28	2	7.1	7	25.0
C事業所	94	7	7.4	14	14.9
D事業所	19	1	5.3	7	36.8
E事業所	99	22	22.2	27	27.3
F事業所	6	1	16.7	3	50.0
G事業所	14	0	0.0	6	42.9
H事業所	34	0	0.0	0	0.0
合計	312	35	11.2	64	20.5

町内のケアプランの利用者数のうち、「ひとり暮らし」の人の合計人数は35人、「同居の家族はいるが日中ひとりになることが多い」人の合計人数は64人となっています。

(3) 負担となっている業務

問 介護支援専門員として普段の業務を行う中で、特にどのような業務が負担となっていますか。(〇はいくつでも) (n=8)

項目	回答数	構成比(%)
利用者本人と家族の意向との調整	2	25.0
サービス事業者との連絡・調整	1	12.5
主治医や他の専門職との連絡・調整	2	25.0
ケアプランの作成	2	25.0
ケアプラン作成以外の書類の作成や提出	5	62.5
介護支援専門員以外の業務や雑務	3	37.5
その他	0	0.0
無回答	1	12.5

負担となっている業務については、「ケアプラン作成以外の書類の作成や提出」が5件と最も多く、次いで「介護支援専門員以外の業務や雑務」が3件などとなっています。

(4) 充実させるべき介護予防事業

問 介護支援専門員として境町内の方々と接する中で、今後充実させるべきだと思う介護予防事業はありますか。(〇はいくつでも) (n=8)

項目	回答数	構成比(%)
運動器の機能向上栄養改善	1	12.5
栄養改善	2	25.0
口腔機能の向上	1	12.5
認知症の予防	2	25.0
閉じこもり予防	3	37.5
うつ予防	1	12.5
特にない	0	0.0
わからない	0	0.0
その他	2	25.0
無回答	0	0.0
累計	12	150.0

充実させるべき介護予防事業については、「閉じこもり予防」が3件と最も多く、次いで「栄養改善」、「認知症の予防」、「その他」がそれぞれ2件などとなっています。

(5) 充実してほしいサービス

問 介護支援専門員として、境町内のサービス利用を計画する際に、以下のうち充実してほしいと感じるサービスはありますか。なお、いずれも要支援者向けの介護予防サービスも含むものとします。(〇はいくつでも) (n=8、表示は回答のあったもののみ)

項目	回答数	構成比(%)
短期入所生活介護	5	62.5
訪問リハビリテーション	3	37.5
訪問介護	2	25.0
訪問入浴介護	2	25.0
訪問看護	2	25.0
居宅療養管理指導	2	25.0
通所リハビリテーション	1	12.5
短期入所療養介護	1	12.5
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1	12.5
夜間対応型訪問介護	1	12.5
認知症対応型共同生活介護	1	12.5

充実してほしいサービスについては、「短期入所生活介護」が5件と最も多く、次いで「訪問リハビリテーション」が3件などとなっています。

(6) 改善または充実するとよいところ

問 介護支援専門員として境町で仕事をするにあたって、ここが改善または充実するとよいと思うところがありますか。(〇はいくつでも) (n=8)

項目	回答数	構成比(%)
介護保険制度やサービス事業者等の情報の提供	1	12.5
給付管理や処遇困難事例に対する相談体制	5	62.5
職能を上げていくための講座や研修の実施	2	25.0
地域の組織や関連機関とのネットワークづくり	2	25.0
医療機関とのネットワークづくり	3	37.5
地域の住民が主体となって取り組む介護予防サービス	2	25.0
その他	0	0.0
特にない	0	0.0
無回答	0	0.0
介護保険制度やサービス事業者等の情報の提供	1	12.5
累計	15	187.5

改善または充実するとよいところについては、「給付管理や処遇困難事例に対する相談体制」が5件と最も多く、次いで「医療機関とのネットワークづくり」が3件などとなっています。

4 サービス提供事業者調査

(1) 事業所の種類

問 あなたが勤務する事業所の種類はどれですか（○は1つ）（n=16）

事業所の種類については、「在宅サービスセンター」と「その他」がそれぞれ5件、「デイケアセンター」が3件などとなっています。「その他」では「居宅介護支援事業所」等の記述がみられます。

項目	回答数	構成比(%)
地域包括支援センター	1	6.3
在宅サービスセンター	5	31.3
デイケアセンター	3	18.8
訪問看護ステーション	1	6.3
短期入所施設	2	12.5
介護老人福祉施設	2	12.5
介護老人保健施設	2	12.5
介護療養型医療施設	0	0.0
グループホーム	2	12.5
その他	5	31.3
無回答	1	6.3
累計	24	150.0

(2) 平成 28 年度におけるサービスの利用者数

問 平成 28 年度における、あなたの事業所で提供しているサービスの利用者数は、当初の見込みに比べどうでしたか。（○は1つ）（n=16）

平成 28 年度におけるサービスの利用者数については、「予定通りだった」が9件で最も多く、次いで「少なかった」が6件、「多かった」が1件となっています。

項目	回答数	構成比(%)
多かった	1	6.3
予定通りだった	9	56.3
少なかった	6	37.5
非常に少なかった	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	16	100.0

(3) 利用者数が多かった理由

問 (2)で「多かった」を選んだ事業所におたずねします。その理由についてどのように分析されていますか。具体的にお書きください。（n=1）

「多かった」を選んだ事業所に、その理由について聞いたところ、「催し物や誕生会等のイベントの開催」が1件となっています。

内容	回答数
催し物や誕生会等のイベントの開催	1
合計	1

(4) 利用者数が少なかった理由

問 (2)で「少なかった」または「非常に少なかった」を選んだ事業所におたずねします。その理由についてどのように分析されていますか。具体的にお書きください。(n=6)

「少なかった」「非常に少なかった」を選んだ事業所に、その理由について聞いたところ、「利用者の入院・施設入所」が5件などとなっています。

内容	回答数
利用者の入院・施設入所	5
他社・他事業所との競合	2
利用者の死亡	1
利用者の体調不良	1
合計	9

(5) 運営における問題

問 現在、貴事業所の運営において問題となっていることはありますか。(〇はいくつでも)(n=16、上位5回答)

項目	回答数	構成比(%)
仕事量に対し、人の確保が追いつかない	10	62.5
質の高い従業員の確保が難しい	7	43.8
介護保険の報酬単価が低い	7	43.8
介護の仕事に対する社会的評価が低い	5	31.3
人材育成・教育をする余力がない	4	25.0
運営コストが大きく利益が出にくい	4	25.0

運営における問題については、「仕事量に対し、人の確保が追いつかない」が10件と最も多く、次いで「質の高い従業員の確保が難しい」と「介護保険の報酬単価が低い」、がそれぞれ7件などとなっています。

(6) 研修等の機会

問 貴事業所では、職員のスキルアップのため、研修等の機会を設けていますか。(〇は1つ)(n=16)

研修等の機会を設けているかについては、「設けている」が11件と最も多く、次いで「十分に設けている」が4件、などとなっています。

項目	回答数	構成比(%)
十分に設けている	4	25.0
設けている	11	68.8
設けているが十分ではない	1	6.3
設けていない	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	16	100.0

(7) 在宅生活を継続するために必要な支援や施策

問 利用者が、住みなれた地域の中で、在宅での生活を継続的に送るために、どのような支援や施策が必要だと思われますか。(〇はいくつでも) (n=16)

項目	回答数	構成比(%)
24時間対応の定期巡回・随時対応型訪問介護看護	6	37.5
複数のサービスを組み合わせ、一体的に提供する複合型サービス	6	37.5
配食やごみ出し、買い物、外出時の移動などの生活支援サービス	11	68.8
在宅医療・介護連携の強化	10	62.5
ひとり暮らし高齢者や、高齢者世帯などに対する見守り支援	11	68.8
安否確認システムの設置支援	6	37.5
認知症高齢者への支援施策の推進	9	56.3
相談窓口や情報提供の充実	5	31.3
高齢者サロン等の集える場所の充実	6	37.5
その他	0	0.0
無回答	0	0.0
累計	70	437.5

在宅生活を継続するために必要な支援や施策については、「配食やごみ出し、買い物、外出時の移動などの生活支援サービス」と「ひとり暮らし高齢者や、高齢者世帯などに対する見守り支援」がそれぞれ11件と最も多く、次いで「在宅医療・介護連携の強化」が10件、「認知症高齢者への支援施策の推進」が9件などとなっています。

(8) 町に支援・充実してほしいこと

問 境町内で介護サービス事業を展開するうえで、境町に支援・充実してほしいと思うことはありますか。(〇はいくつでも) (n=16)

項目	回答数	構成比(%)
介護保険制度に関する最新・適切な情報の提供	5	31.3
町のホームページなどを活用した、事業所についての情報提供	2	12.5
事業者間の連携強化のための支援	5	31.3
職員の質の向上のための研修の実施	8	50.0
ホームヘルパーなどサービス提供者養成の推進	1	6.3
処遇困難者への対応	3	18.8
介護人材確保、定着に向けた取り組み	6	37.5
その他	0	0.0
特になし	0	0.0
無回答	2	12.5
累計	32	200.0

町に支援・充実してほしいことについては、「職員の質の向上のための研修の実施」が8件と最も多く、次いで「介護人材確保、定着に向けた取り組み」が6件、「介護保険制度に関する最新・適切な情報の提供」と「事業者間の連携強化のための支援」がそれぞれ5件などとなっています。

第4節 課題の整理

1 統計データから見える課題

本町においても国全体の傾向と同様に、人口については今後減少傾向に転じることが予想されています。一方、人口のうち高齢者数や高齢化率、世帯では高齢者単身世帯や高齢者の夫婦のみの世帯、要介護・要支援認定者数などについては増加の傾向がみられ、平成37（2025）年度には後期高齢者の数が約4,000人に迫ることが見込まれます。

就労人口や年少人口は減少が続いており、介護保険制度を持続させるための取り組みも必要となっています。

2 「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」から見える課題

会やグループへの参加状況としては、趣味関係を筆頭に、収入のある仕事や、町内会・自治会、スポーツ関係などが2割を超える回答となっており、多様な参加状況が見て取れます。また、地域づくりの活動への参加意向は6割近く、地域づくりの企画運営への参加意向は4割近くと関心の高さがうかがえます。町内の圏域が1つであるということは、町全体で一体となって取り組むことができることを示しています。生きがいつくりとして、また、介護予防としても地域活動を活発にすることが求められていると言えます。

また、医療や介護が必要になった際や終末期での意向では、自宅で過ごしたい方が約半数、施設で過ごしたい方が約3割という結果となっています。個人の意思を尊重し、最期まで尊厳のある暮らしを送れる地域での包括的なケア体制づくりが必要です。

3 「在宅介護実態調査」から見える課題

主な介護者が介護のために仕事をやめたケースが3.9%と、本町においても介護離職の現状はゼロではないことが見て取れます。さらに働いている方でも労働時間の調整や休暇を利用して介護を行っている状況があり、そのことに難しさを感じている方は全体の2割弱となっています。

介護者にとって介護の負担ができるだけ小さいものとなるよう、制度の充実や、サービスを利用しやすい環境づくりなど働く家族等に対する相談・支援の充実に努めることが必要です。

4 「介護支援専門員調査」「サービス提供事業者」から見える課題

介護支援専門員調査では、担当するケアプランの利用者のうち約1割がひとり暮らし、また、同居の家族はいても日中独居になる方が約2割いることが見て取れます。また、負担となっている業務ではケアプラン作成など介護支援専門員としての仕事以外の雑務が挙げられています。

サービス提供事業者では、運営における問題として、従業員の確保が難しいこと、介護保険の報酬単価が低いことが挙げられました。そのことから、実務者一人にかかる業務量の増加が課題となっている状況がうかがえます。

困難事例に対する相談体制や研修制度の充実など、地域で安定したサービスを受けるためには、提供側への適切な支援が欠かせません。